

○ 研究ノート

1 『八千代市の歴史 資料編』未掲載の板碑データ 2 —下高野（補遺）& 萱田君塚家墓地・小池妙光寺の板碑について—

藤 由美

はじめに

『史談八千代』第46号(*1)では、平成3年(1991)刊行の『八千代市の歴史 資料編 原始・古代・中世』(*2 以下『資料編』と略す)に個別データが収録されていない八千代市内の板碑で、平成20年(2008)『八千代市の歴史 通史編 上』(*3 以下『通史編』と略す)の一覧表にその数のみが追加された板碑の内訳と、下高野・上高野・島田台間見穴遺跡などの板碑20基について報告した。

その後、『通史編』中世「市域の板碑」を執筆された道上文氏から、第46号の拙稿の修正箇所などについてご教授いただき、また八千代市立郷土博物館(以下、市博物館と略す)から下高野の板碑7点の館蔵の拓本を閲覧・複写が許可されたことと、本年3月に下高野板碑群のある地点付近の発掘調査報告書(*4)が刊行されたことにより、前号の拙稿に修正と補遺を加えることにした。

さらに今回は、故村田一男顧問がかつて調査された既報告の板碑で、『通史編』一覧表の数に入っていなかった萱田君塚家墓地と小池妙光寺の板碑について、市博物館に収蔵されていた拓本の拓影を付したデータを紹介する。

1. 『通史編』一覧表に追加された板碑の内訳

表1 市内板碑調査の追加分の内訳(平成3~20年・『八千代市の歴史』に個別データ未掲載)

	所在	年銘(追加分のみ)	年号有数	年不明数	無刻数	合計
V	村上・ 正覚院	康応2年	1 (*3)	7 (*17)		8 (*20)
X	下高野・ 天神	文正2年×2基 文明13・15年	4	3		7
Y	上高野・ 金乗院	文明11年	1			1
Z	平戸・ 染谷正行家			1 (題目)		1
a	島田台・ 間見穴遺跡			3 (題目)	2	5

(*)は所在別の総数

『通史編』には、「八千代市では現在、171 基の板碑が確認されている。『資料編』149 基であったが、追加調査によって 25 基ふえている。」と記述されているが、道上氏が再集計したところ、『資料編』の数は 150 基、『通史編』増加分は 22 基で、合計 172 基であるとご教示いただいた。米本・長福寺の無刻板碑 5 基を増加分としたのは筆者の間違いで増減はなく、したがって、本誌第 46 号の表 1 は、正しくは前頁表 1 のようになる。

2. 下高野 天神の板碑群と発掘調査で明らかになった中世城館址の立地

『通史編』一覧表の「X 下高野・天神」の文正 2 年銘 2 基、文明 13 年・15 年銘各 1 基、年号不明 3 基の計 7 基について、道上氏から提供いただいた村田顧問の手書きの覚書を参照し、掲載を許可いただいた市博物館所蔵の拓本を地点別に紹介する。

板碑群 3 地点の板碑数は断片を含めると全 13 点、うち梵字・年号銘のある 7 基を採拓し、『通史編』一覧表に反映させている。

13 点の板碑の現状は、『史談八千代』46 号掲載の写真と航空地図で示したとおり、第 1～3 地点に集積されている。

この板碑群 3 地点を含む天神遺跡 a 地点台地の縁部分が 2020 年に発掘調査され、2022 年 3 月に報告書 (*4) が刊行された。調査では、中世の土塁と堀、地下式坑の遺構や、鎌倉期の中国製青磁器や 15 世紀の瀬戸・美濃焼陶器片などの遺物が検出され、これまでも推定されていた中世城館跡という立地の性格が明らかになった。

図 1 下高野天神 a 地点内の板碑集積地 3 地点と 2020 年の発掘調査の範囲（報告書の図に加筆）



[参考]

「天神遺跡 a 地点」発掘調査報告書 (*4) の「第 6 節 まとめ」の「中世」から転載

遺構は、南北の台地縁辺に、01M・06M の横堀を造り、最南部に土塁を巡らした主郭を配置している。

土塁には、04M が郭内の防御用堀として掘られている。調査区中央及び北側の遺構群である 01SK・01P・21 ～ 22P・03M は土地利用上、平時での所産と想定したい。

遺物は、22P から 13 世紀中頃～ 14 世紀初頭の中国産青磁連弁文口折皿が出土している。また、15 世紀代の瀬戸美濃焼平碗が同じく 22P から、46P から瀬戸・美濃焼直縁大皿が出土している。戦国後期以前の地域拠点としての土地利用が想定される。

調査範囲外からは、五輪塔・宝篋印塔・板碑等中世の石碑が集積ないし祀られている。この内、板碑には年代が刻まれており、文正 2 年 (1467)、文明 15 年 (1483) 等と 15 世紀後半の葬祭儀式の一端を示している。また、近隣住民の方々には、「深山」・「小沢」・「立石」姓が多く、千葉氏系の出自を示していることから、臼井氏や臼井原氏との関連性が考慮される。

筆者注：M=溝(堀) SK=台形成形区画 P=ピット (土坑) DR=土塁

表 2 下高野の各板碑の属性

No.	銘文	梵字など	*法量 cm	状態
第 1 地点				
1-①	「文明十三年」(1481)	キリーク b (阿弥陀一尊)・蓮座	46.0×14.4	完形
1-②		キリーク b (阿弥陀一尊)・蓮座	41.2×19.0	断碑
1-③		花瓶の痕跡カ?	39.0×18.5	断碑
第 2 地点				
2-②	「文明十五年」(1483)	キリーク b・サ・サク (阿弥陀三尊)・蓮座	48.5×19.0	略完形
2-③	「文正二年(1467)/二 月一/妙口」	キリーク b (阿弥陀一尊)・蓮座	33.0×15.3	断碑
2-⑤	「文正二年」(1467)	キリーク b (阿弥陀一尊)・蓮座	54.7×17.4	完形
第 3 地点				
3-①		キリーク b (阿弥陀一尊)	47.0×16.0	完形

*法量は、村田一男氏の覚書(道上文氏からの提供)による。キリーク b は『史談八千代』46 号参照

図2 下高野天神 第1地点と第2地点の板碑群拓影 (縮尺1/5)

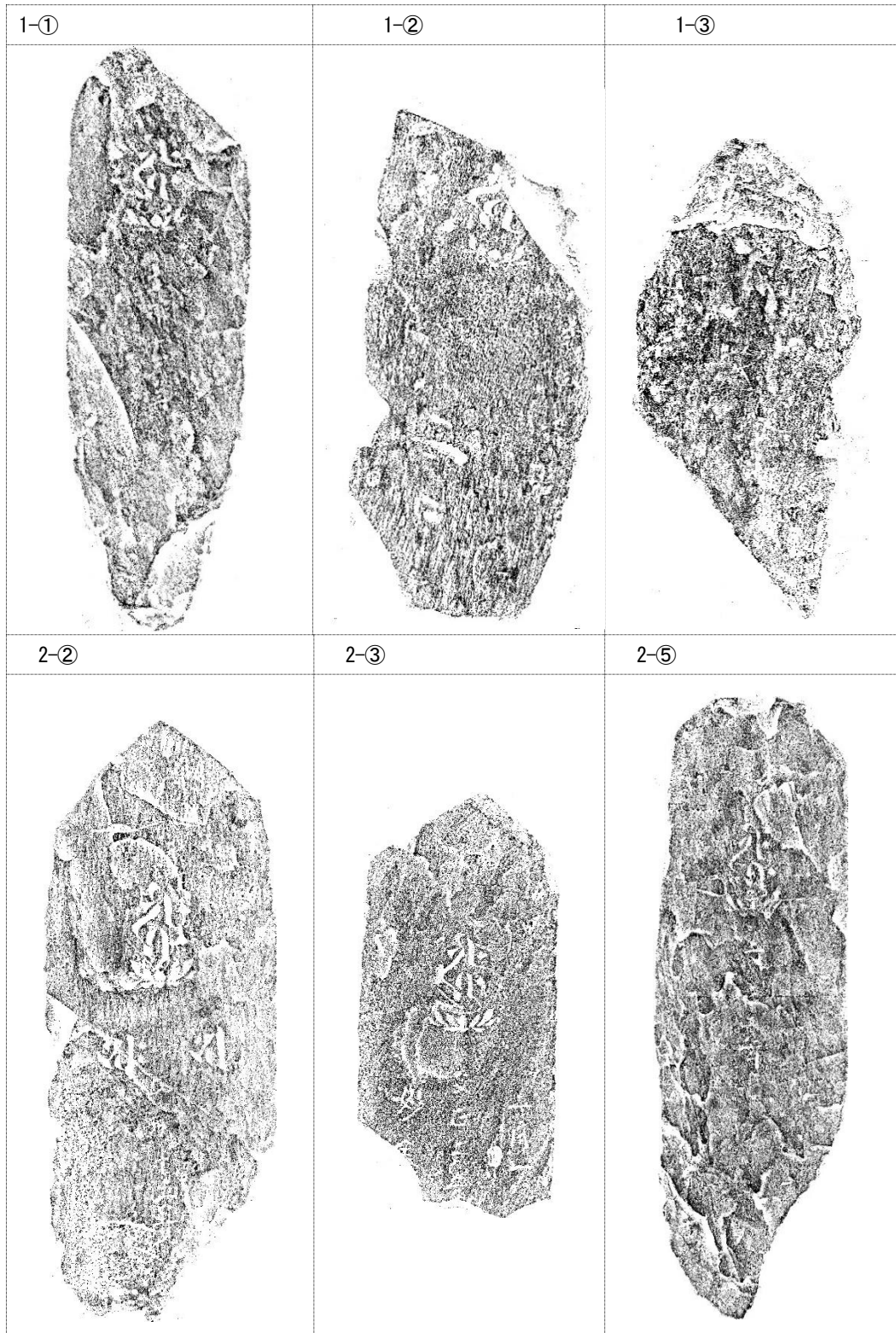


図3 第3地点板碑拓影

3-①



図4 天神 a 地点発掘調査の写真(報告書より)



↑土壘 (01DR)

↓土壘に伴う堀 (04M)



3. 萱田 君塚長右衛門家墓地の板碑

萱田小字上ノ台の君塚長右衛門家墓地の板碑は、『通史編』発刊以後の2010年2月に村田一男顧問が発見された板碑で、『史談八千代』第36号(*5)で報告されている。

本会の萱田のフィールドワークの際に村田顧問が同墓地で逆さにして据えられているのを見つけられ、後日採拓された拓本が市博物館に遺されていた。

高さ60.5cm、幅25cmの武蔵型、種子はキリーク(阿弥陀如来)と右下にサ(観音)、左下にサク(勢至菩薩)、蓮座はキリークの下のみ阿弥陀三尊板碑で、銘は不詳である。

他にも数片の板碑があり、墓塔の安定材として使われている。

「鎌倉・室町時代には萱田郷として栄えた村であるが、板碑はこのほかには梵天塚にあった正中2年の板碑のみしか確認されていないので、この時代の信仰文化を知る貴重な資料である。」と『史談八千代』第36号で村田顧問は述べられている。

図5 君塚長右衛門家墓地の板碑の拓影・写真

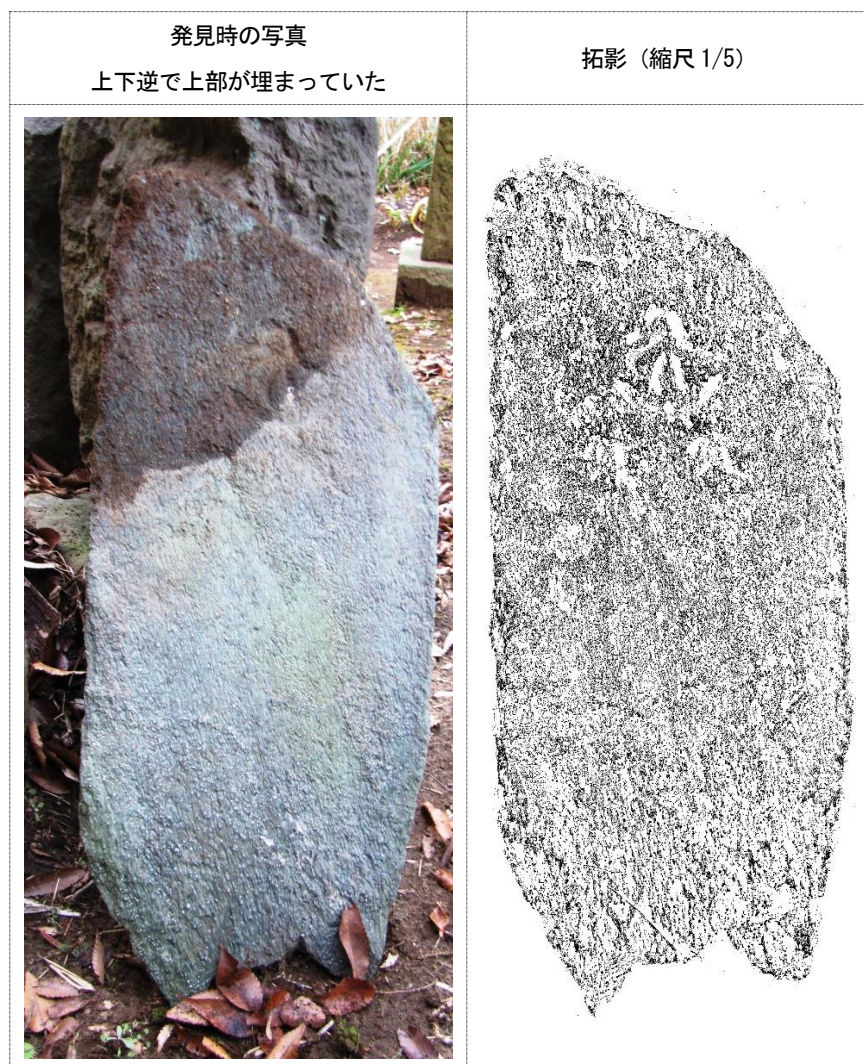


図6 君塚長右衛門家墓地で村田顧問が板碑を発見された（2010年2月4日 筆者撮影）



4. 小池の妙光寺の板碑

30年前に調査されたまま、『資料編』に記載がなく『通史編』の表にもカウントされていない板碑がある。1992年、『史談八千代』第17号の「活動記録」に「6月21日 学習会 拓本実習（小池・妙光寺）」とあり、私も参加した記憶がある。『史談八千代』にはその調査報告はないが、「広報やちよ」の平成4年8月15日号に「ふるさとの歴史／新発見の板碑」と題して、村田一男顧問がこの調査のことを書かれ、日蓮宗の曼荼羅を彫った延徳4年（1492）銘の板碑を「妙光寺の板碑」として紹介されている。

今までこの板碑の存在は謎であったが、今回、市博物館所蔵の拓本資料の中に、この「妙光寺の板碑」の拓本があることがわかった。

図7 小池妙光寺の板碑の拓影（縮尺1/5）と翻刻



村田顧問の記述では、本堂左側奥の墓地の草むらから取りだした 15 枚の板碑のうち曼荼羅が彫りつけてあるのが 4 枚、そのうちのこの延徳 4 年銘碑については拓本をとり、他の 11 枚は文字不明や断片であったとのことである。紹介されている延徳 4 年銘碑の翻刻は銘文の下部半分が略された上部のみのものだったので、今回は、館蔵の拓本から早川正司氏のご指導で全文の翻刻を試みた（図 7）。

この板碑は武蔵型で、中央部に題目「南無妙法蓮華経」を大書し、その周囲に釈迦如来・多宝如来など諸仏諸菩薩、諸天善神の名が多数刻まれている。日蓮宗の本尊である「大曼荼羅」を刻んだ板碑で、大曼荼羅は、十界の諸仏・諸神を配置していることから「十界曼荼羅」とも称される。

同様な十界曼荼羅の板碑は、『資料編』に銘文が記載されている小池の浅野七男家 A-7 の板碑で、更に四天王や不動・愛染明王の種子があり、日蓮筆曼荼羅本尊の内容に近い。また鎌ヶ谷市の万福寺にも明徳元年（1390）と天文 23 年（1554）の武蔵型十界曼荼羅の板碑がある（*6）。

十界曼荼羅の板碑は、多古町の千田庄には十界曼荼羅を刻む下絵型板碑が多数あるが、千葉県北西部の武蔵型では「南無妙法蓮華経」の一遍首題と、首題に二尊（多宝如来・釈迦牟尼仏）、二尊に加えて鬼子母神・十羅刹女を配した板碑がほとんどである。

おわりに

下高野の板碑データについては、拓本を明示してその正確性を期したと同時に、最新の発掘調査の結果によりその立地を明らかにした。萱田の君塚家墓地の板碑については、『史談八千代』第 36 号の村田氏の報告の概要とその拓本を新に示した。小池妙光寺の板碑は、その拓本と翻刻と共に、貴重な武蔵型十界曼荼羅板碑であることを報告した。

最後に、故村田氏の板碑に関する覚書を提供下さった道上文様、館蔵の拓本を探し提供いただいた八千代市立郷土博物館の常松成人様、翻刻についてご教示いただいた早川正司様に謝意を表します。

*注

- 1 蕨由美「『八千代市の歴史 資料編』未掲載の市内板碑データー下高野・上高野などの板碑についてー」『史談八千代』第 46 号 八千代市郷土歴史研究会 2021 年
- 2 「第 2 章 九 金石文」『八千代市の歴史 資料編 原始・古代・中世』八千代市 1991 年
- 3 「第五章第二節 市域の板碑」『八千代市の歴史 通史編 上』八千代市 2008 年
- 4 『千葉県八千代市公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅷ 吉橋新山遺跡 a.b 地点 内野南遺跡 j 地点 天神遺跡 a 地点』八千代市教育委員会 2022 年
- 5 村田一男「君塚長右衛門家墓地の板碑 報告」『史談八千代』第 36 号 八千代市郷土歴史研究会 2011 年
- 6 『かまがやの板碑』鎌ヶ谷市郷土資料館 2002 年